

平成 30 年度 事務事業評価シート 【 事後評価 】

※色付きのセルのみ入力してください。また、行・列の挿入や削除は絶対に行わないでください。

会計		款		項		目		事業コード		事業名	
一般		10		05		08		104550		文化財保護活用事業	
総合計画	分野	人づくり									
	政策	3-5 芸術文化の振興									
	施策	3 文化財の保護と活用									
目的		文化財の保護と活用									
対象		市民、指定文化財（将来的に文化財として指定する価値があるものを含む）									
意図		(市民)文化財愛護の気持が育まれ、指定文化財の保護意識が向上する。 (文化財)適正に保護される									
事業概要 …上記目的を実現するための事業手法を記載すること											
○文化財保護 18,436千円 ・文化財の調査と指定 ・市が所有する文化財の適切な管理運営 ・熊谷家住宅の修復及び周辺環境整備 ・花輪堤ハナショウブ群落の保存管理及び調査 ・国選択文化財「石鳩岡神楽・土沢神楽」調査											
○文化財活用 2,133千円 ・文化財説明板や案内板の設置及び修繕 ・早池峰自然観察会と文化財セミナーの開催 ・文化財調査報告書と花巻市史資料編の作成 ・岩手県文化財愛護協会負担金											
市民参画の有無 【 対象外 】											
市民協働の形態		共催		実行委員会・協議会		事業協力・協定					
		後援・協賛		補助・助成		○委託					
活動指標（上記「事業概要」に対応）			単位	区分	29年度(実績)	30年度(実績)	31年度(計画)				
① 文化財調査の件数			件	計画	5	5					
				実績	5	5					
② 文化財セミナー、自然観察会の開催件数			件	計画	3	3					
				実績	3	3					
③ 説明板や案内板等の改修、設置件数			件	計画	9	6					
				実績	7	5					
成果指標（上記「意図」に対応）			単位	区分	29年度(実績)	30年度(実績)	31年度(計画)				
① 指定解除した文化財の件数			件	目標	0	0					
				実績	0	0					
② 市内の文化財等を6件以上知っている市民の割合			%	目標	50.0	50.0					
				実績	33.8	34.6					
③				目標							
				実績							
成果指標の達成度		目標値より高い			概ね目標値どおり			○	目標値より低い		

成果指標の達成度の要因分析 (新規事業及び成果指標を変更した場合は、その成果指標を設定した考え方、目標値の根拠を記載)		
・現在、市内には288件の指定文化財がある。文化財保護のため、市所有の指定文化財建造物及び指定天然記念物の維持管理を行うとともに、市指定の文化財所有者に対しては、修理に要する費用の一部を申請により補助しており（平成30年度は申請なし）、適切な管理と保護対策の実施により、文化財の指定解除は発生しなかった。 ・市民の文化財保護に対する理解と認識を深めるため、文化財セミナー・早池峰自然観察会の開催や文化財説明板・案内板の設置等により文化財の活用と普及を推進したが、市民の日常生活全般において文化財に触れる機会が少ないことなどから、市内の文化財等を6件以上知っている市民の割合は、前年度実績を上回ったものの、目標を下回ったと考えられる。		
目的妥当性	公共関与の妥当性	地域において過疎化や少子高齢化が進行し、加えて経済状況の悪化に伴い、市民共有の財産である文化財を保存、伝承する環境は厳しさを増している。文化財は人と人とを結び付け、地域の活性化や魅力あるまちづくりに貢献するものとして、行政がその絆を取り持つ役割を担っている。
	○ 妥当である	
	見直し余地がある	
有効性	成果の向上余地	地域コミュニティ会議と連携を図りながら、文化財説明板の設置や修繕を継続的に行うことで文化財の現状を把握でき、適切な保存に結び付けることができる。また文化財ガイドブック等を効果的に活用することで、より多くの市民の関心を引くことが期待される。
	○ 向上余地がある	
	向上余地がない	
効率性	事業費・人件費の削減余地	文化財は地域のシンボルであり、市民教育や観光振興においても大きな価値を伴う。経費の削減により指定文化財の適切な維持管理ができなくなり、保存状態の悪化や、文化財そのものの散逸や滅失を招く。また地域コミュニティの沈滞を招き観光事業に大きな損失となる。
	事業費の削減余地がある	
	人件費の削減余地がある	
公平性	○ どちらも削減余地がない	
	受益と負担の適正化余地	適切な保護管理を行うことで、指定文化財が市民共有の財産としての価値を有する。所有者に対しては、管理や修繕に要する費用の一部を補助している。また所有者と連携を図りながら可能な限り公開・活用を図っている。
	受益機会の見直し余地がある	
費用負担の見直し余地がある		
○ 適正である		
総合評価 …上記評価結果の総括		
市内の指定文化財件数は、「花巻まつり」を市指定無形民俗文化財（年中行事に関する風俗習慣）に新規指定したことにより、前年度から1件増の288件となった。 また、市指定有形文化財「熊谷家」本屋の三和土・かまど修復工事や花輪堤ハナショウブ群落の保存管理に係る調査事業の実施等により、文化財の適切な保護に努めた。 さらに、文化財を活用したセミナーの実施や文化財説明板の設置等により、文化財の活用と普及を推進した。 今後も、市内にある各分野の文化財を調査の上、重要なものについて指定を行うとともに、市民の文化的向上・発展に資するため、文化財の保護及び活用に必要な措置を講じる必要がある。		

平成 30 年度 事業説明資料 【 事後評価 】

※色付きのセルのみ入力してください。また、行・列の挿入や削除は絶対に行わないでください。

会計	款	項	目	事業J-ド	事業名
一般	10	05	08	104550	文化財保護活用事業

単位：千円

		29年度 決算額 (A)	30年度 決算額 (B)	31年度 現計予算額	決算額前年比 (B-A)
事業費		56, 847	20, 569		△ 36, 278
財 源 内 訳	国・県	2	2, 463		2, 461
	地方債				
	その他	48, 359	13, 098		△ 35, 261
	一般財源	8, 486	5, 008		△ 3, 478

※特定財源の内訳	
国宝重要文化財等保存・活用事業費補助金(民俗文化財調査事業)	850 (補助基準額1,701(国)1/2)
国宝重要文化財等保存・活用事業費補助金(天然記念物緊急調査)	1,613 (補助基準額3,227(国)1/2)
その他	13,098 (まちづくり寄附金13,000、出版物販売代金78、花巻城内伊藤家住宅管理寄附金20)

事業期間	○ 単年度繰返	期間限定	[平成 年度 ～ 平成 年度]
部重点施策における目標			
文化財を保護し活用する			
事業開始の背景・経緯			
文化財保護法（昭和25年法律第214号）、花巻市文化財保護条例（平成18年条例第242号）により、市内にある各分野の文化財を調査し、重要なものについて指定を行い、その保存、活用及び伝承のため必要な措置を講じてきた。			
事業概要			
○文化財保護 18,436千円 ・文化財の調査と指定 ・市が所有する文化財の適切な管理運営 ・熊谷家住宅の修復及び周辺環境整備 ・花輪堤ハナショウブ群落の保存管理及び調査 ・国選択文化財「石鳩岡神楽・土沢神楽」調査			
○文化財活用 2,133千円 ・文化財説明板や案内板の設置及び修繕 ・早池峰自然観察会と文化財セミナーの開催 ・文化財調査報告書と花巻市史資料編の作成 ・岩手県文化財愛護協会負担金			
意見・要望等の状況（市政懇談会や支所執務、議会答弁対応その他意見・提言等）			
市内に多く所在する国・県・市指定の文化財を守り、後世に継承していくことの必要性が要望されており、現状調査等ふまへ、その保存に努めている。			

担当部署 部名 教育部 課名 文化財課 担当係長 小田島英明 内線 9-30-353 (単位：千円)

《事業手法の詳細》…概略図による事業手法の詳細と事業費の内訳を記載すること。 【適宜、セルは結合して構わないが、結合した1つのセル内は1文章程度にとどめること。】	
《花巻市の文化財保護の考え方》 「花巻市文化財保護指針」3つの基本方針 花巻の文化財を「知る」こと「守る」こと「活かす」こと	
《花巻市内にある指定文化財》 288件（国指定12件、県指定30件、市指定246件） ※H31.3月末現在 ○有形文化財（建造物・美術工芸品）147件 「旧小原家住宅」（国指定）、「木造毘沙門天立像」（国指定）等 ○無形文化財（工芸技術）2件 「花巻傘」、「成島和紙」 ○民俗文化財（有形民俗文化財・無形民俗文化財）67件 「早池峰神楽」（ユネスコ無形文化遺産・国指定）、「南部杜氏の酒造用具」（国指定）等 ○記念物（史跡・名勝・天然記念物）72件 「早池峰山及び薬師岳の高山帯・森林植物群落」（国指定）、「イーハトーブの風景地」（イギリス海岸ほか 国指定）、「花巻城本丸跡」（市指定）等	
《事業内容》 ■文化財保護 18,436 千円 ○文化財の調査と指定 1,652 千円 ・文化財保護審議会の開催（6月14日、3月15日）、同委員による文化財調査を実施 ・「花巻まつり」を市指定無形民俗文化財に指定 ○市が所有する文化財の適切な管理運営 5,173 千円 旧小原家住宅・伊藤家住宅・花輪堤ハナショウブ群落・カズクリ自生地（国指定）、熊谷家・花巻城内伊藤家住宅（市指定）の維持管理 ○熊谷家の修復及び周辺環境整備 6,579 千円 本屋の三和土・かまど修復工事、周辺の樹木伐採を実施 ○花輪堤ハナショウブ群落の保存管理及び調査 3,266 千円 ・保存管理検討委員会の開催（5月30日、10月31日、2月27日） ・群落の植生やノハナショウブの生育環境等の調査、指定地外周部の草刈り等を実施 ○国選択文化財「石鳩岡神楽・土沢神楽」調査 1,766 千円 ・調査委員会の開催（12月10日、2月25日） ・石鳩岡神楽・土沢神楽の伝承者アンケート調査、弟子神楽・関連神楽調査等を実施 ○個人が所有する市指定文化財の管理指導や修理費の補助 50万円を限度とし、2分の1を補助（平成30年度は申請なし）	
■文化財活用 2,133 千円 ○文化財説明板と案内板の設置及び修繕 1,239 千円 説明板・案内板の設置（4件）、説明板の修繕（1件）を実施 ○早池峰自然観察会と文化財セミナーの開催 322 千円 早池峰自然観察会（6月26日、9月26日）、文化財セミナー（10月22日）を実施 ○文化財調査報告書と花巻市史資料編の作成 533 千円 文化財調査報告書（第13集 300冊）、市史資料編御次留書帳（第18巻 300冊）を刊行 ○岩手県文化財愛護協会負担金 39 千円	

平成 30 年度 事務事業評価シート 【 事後評価 】

※色付きのセルのみ入力してください。また、行・列の挿入や削除は絶対に行わないでください。

会計		款	項	目	事業コード	事業名		
一般		10	05	08	104570	埋蔵文化財保護活用事業		
総合計画	分野	人づくり						
	政策	3-5 芸術文化の振興						
	施策	3 文化財の保護と活用						
目的		埋蔵文化財の保護						
対象		遺跡						
意図		地域の歴史を知る貴重な歴史遺産である遺跡が守られる。						
事業概要 …上記目的を実現するための事業手法を記載すること								
○埋蔵文化財の保護 18,245千円 ・埋蔵文化財保護のための遺跡情報周知と保護措置（発掘調査・工事立会等）の実施 ・埋蔵文化財の記録保存調査の実施、市内遺跡の分布状況調査 ・花巻城跡の遺跡内容確認調査の実施 ・公有化遺跡の環境整備								
○埋蔵文化財の活用 5,340千円 ・埋蔵文化財・史跡等を活用した各種講座及び講演会・セミナーの開催 ・埋蔵文化財を活かした地域事業への協力 ・遺跡標柱の設置 ・総合文化財センターにおける埋蔵文化財資料の収蔵・展示 ・利活用に向けた資料の再整理及び展示・体験学習等の実施〈新規〉								
市民参画の有無 [対象外]								
市民協働の形態		共催		実行委員会・協議会		事業協力・協定		
		後援・協賛		補助・助成		委託		
活動指標（上記「事業概要」に対応）		単位		区分	29年度(実績)	30年度(実績)	31年度(計画)	
① 埋蔵文化財保護制度を周知した回数	回	計画		3		3	3	
		実績		3		4		
② 各種講座・展示会等の開催	回	計画		5		6	6	
		実績		5		6		
③ 遺跡標柱設置数	本	計画		10		10	10	
		実績		7		10		
成果指標（上記「意図」に対応）		単位		区分	29年度(実績)	30年度(実績)	31年度(計画)	
① 保護された遺跡の件数	件	目標		80		80		
		実績		104		89		
② 埋蔵文化財関係講座等受講者数	人	目標		1,500		1,000		
		実績		2,151		1,906		
③		目標						
		実績						
成果指標の達成度	○	目標値より高い		概ね目標値どおり		目標値より低い		

成果指標の達成度の要因分析 （新規事業及び成果指標を変更した場合は、その成果指標を設定した考え方、目標値の根拠を記載）		
埋蔵文化財の保護件数は、遺跡内で開発を行う場合の文化財保護法に基づく届出により、事前の保護の取扱いを実施した件数である。景気の動向等により、開発数は変動するが、平成30年度は目標を若干上回る件数の保護となった。 地域の歴史を知る上で貴重な財産である「埋蔵文化財」の関心を高めるため、市民を対象とした各種講座、出土品展示、体験学習など教育普及機能の向上に努めた。また、展示活動、体験学習等に利活用するため収蔵資料の再整理を行い、企画展、体験学習を実施した。		
目的妥当性	公共関与の妥当性	埋蔵文化財は国や地域の文化の成り立ちを明らかにする上で欠くことのできない国民共有の財産であり、地域の資産でもある。その保護と活用に努めることは、地方公共団体の任務として文化財保護法に規定されており、市の主体的な実施が必要である。
	○ 妥当である	
	見直し余地がある 妥当でない	
有効性	成果の向上余地	岩手県教育委員会との連携による県内開発業者への周知徹底を図るほか、建設部等庁内関係部署とのさらなる情報共有により、保護活動を向上させる。また、埋蔵文化財資料等を活用した講座等を開催することにより市民意識を一層向上させることができる。
	○ 向上余地がある	
	向上余地がない	
効率性	事業費・人件費の削減余地	埋蔵文化財を正しく保護・活用するために、専門知識及び経験を有した職員の対応が必要であること、遺跡内での開発数は年度により増減することから、一定の事業費及び人件費の確保が必要である。
	事業費の削減余地がある	
	人件費の削減余地がある ○ どちらも削減余地がない	
公平性	受益と負担の適正化余地	埋蔵文化財の保護による受益は、記録保存された遺跡の調査成果等公開し、広く周知することにより、地域を知る財産として、市民はもとより国民に及んでいることから、公平である。
	受益機会の見直し余地がある	
	費用負担の見直し余地がある ○ 適正である	
総合評価 …上記評価結果の総括		
埋蔵文化財が国民共有の財産であることを念頭に、関係各所と連携し、開発者や一般市民への制度周知に努めた。また、埋蔵文化財の適切な保護・保存を行い、その資料を有効に活用した事業を更に推進する必要がある。		

平成 30 年度 事業説明資料 【 事後評価 】

※色付きのセルのみ入力してください。また、行・列の挿入や削除は絶対に行わないでください。

会計	款	項	目	事業コード	事業名
一般	10	05	08	104570	埋蔵文化財保護活用事業

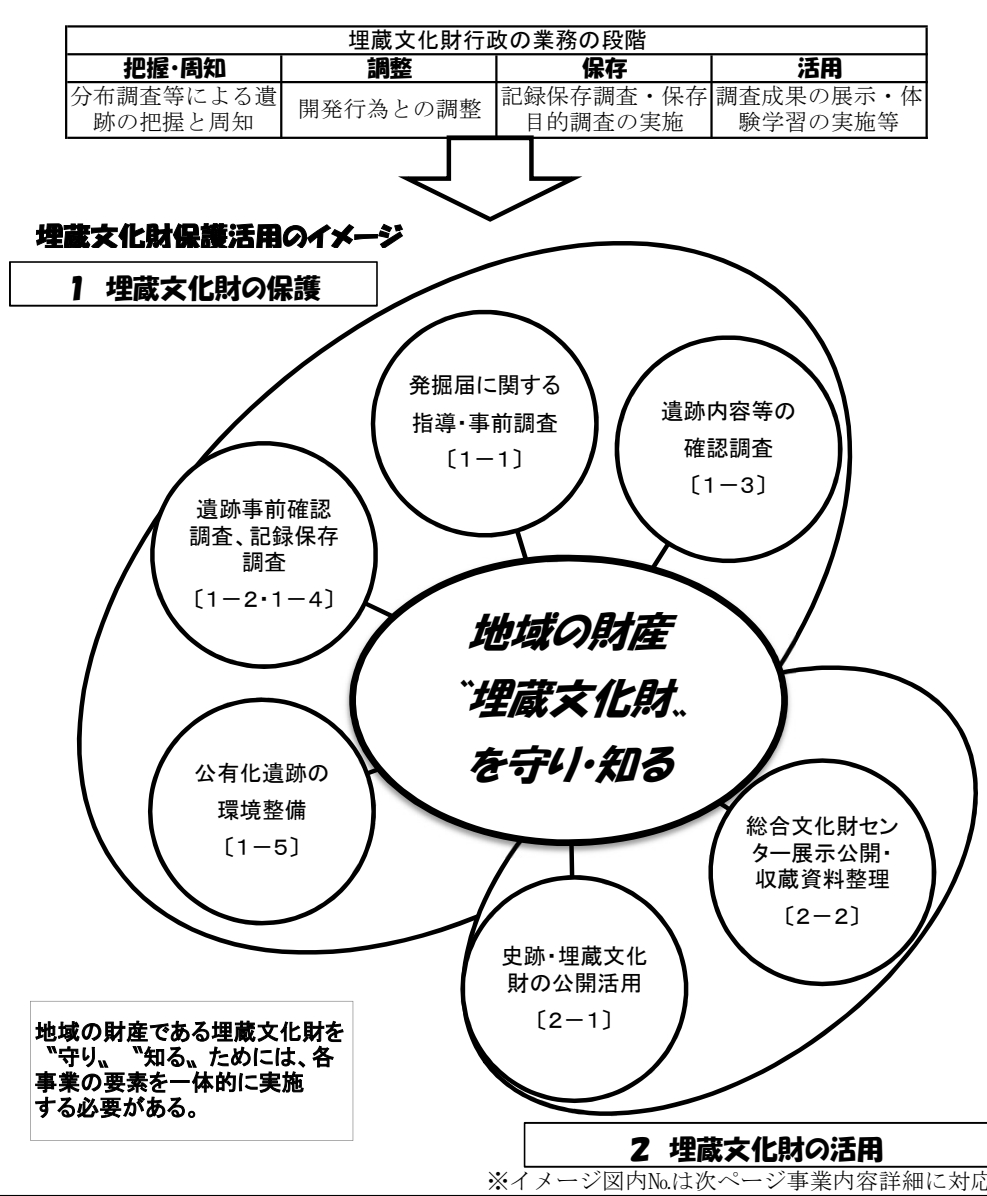
単位：千円					
		29年度 決算額(A)	30年度 決算額(B)	31年度 現計予算額	決算額前年比 (B-A)
事業費		29,025	23,585		△ 5,440
財 源 内 訳	国・県	4,156	6,518		2,362
	地方債				
	その他	5,959	11		△ 5,948
	一般財源	18,910	17,056		△ 1,854

※特定財源の内訳	
・国庫 国宝重要文化財等保存整備費補助金	5,671 (補助基準額11,342千円 (1/2))
・県 事務移譲交付金483、文化財保護事業補助金	364 (補助基準額2,822千円 (12.9%))
・その他 雑入 (体験学習材料代)	11千円

事業期間	○ 単年度繰返	期間限定	〔平成 年度 ～ 平成 年度〕
部重点施策における目標			
文化財を保護し活用する			
事業開始の背景・経緯			
文化財保護法（昭和25年法律第214号）に基づき、遺跡の周知徹底、遺跡内での開発行為等の把握に努め、保護に必要な指導及び措置を講ずるとともに、保護された遺跡の情報を活用し、市民の埋蔵文化財への理解を深めるよう努めてきた。			
事業概要			
○埋蔵文化財の保護 18,245千円			
・埋蔵文化財保護のための遺跡情報周知と保護措置（発掘調査・工事立会等）の実施			
・埋蔵文化財の記録保存調査の実施、市内遺跡の分布状況調査			
・花巻城跡の遺跡内容確認調査の実施			
・公有化遺跡の環境整備			
○埋蔵文化財の活用 5,340千円			
・埋蔵文化財・史跡等を活用した各種講座及び講演会・セミナーの開催			
・埋蔵文化財を活かした地域事業への協力			
・遺跡標柱の設置			
・総合文化財センターにおける埋蔵文化財資料の収蔵・展示			
・利活用に向けた資料の再整理及び展示・体験学習等の実施（新規）			
意見・要望等の状況（市政懇談会や支所執務、議会答弁対応その他意見・提言等）			
花巻城跡の保存や史跡の活用等について議会等で指摘があり、調査状況の成果公表や講演会の開催等埋蔵文化財の周知、活用に努めている。			

担当部署 部名 教育部 課名 文化財課 担当係長 佐藤 幸泰 内線 29-4567 (単位：千円)

《事業手法の詳細》…概略図による事業手法の詳細と事業費の内訳を記載すること。
【適宜、セルは結合して構わないが、結合した1つのセル内は1文章程度にとどめること。】



平成 30 年度事業説明資料 【 事後評価 】

※色付きのセルのみ入力してください。また、行・列の挿入や削除は行わないでください。

会計	款	項	目	事業コード	事業名
一般	10	05	08	104570	埋蔵文化財保護活用事業

(単位：千円)

《事業手法の詳細》…概略図による事業手法の詳細と事業費の内訳を記載すること

【適宜、セルは結合して構わないが、結合した1つのセル内は1文章程度にとどめること。】

1 埋蔵文化財の保護 18,245 千円

1-1 発掘届に関する指導・事前調査

	事業費	財源内訳				
		国	県	地方債	その他	一般財源
H30	8,360		483			7,877
H29	8,975		642			8,333
増減	△ 615		△ 159			△ 456

■ 遺跡範囲照会回答

■ 文化財保護法に基づく届出事務等

■ (仮称)花巻城跡保存計画策定に向けた調査

- ・花巻城跡調査保存検討委員会の開催（1回）
- ・花巻城跡調査等スケジュール（H28～32予定）

年度	実施予定内容
H28	二之丸跡内容確認調査、次年度以降調査検討（花巻城跡委員会）
H29	二之丸跡内容確認調査、次年度以降調査検討（〃）
H30	本丸跡内容確認調査、二之丸跡調査報告書刊行、次年度以降調査検討（〃）
H31	本丸跡内容確認調査、花巻城跡保存計画案検討
H32	花巻城跡保存計画案とりまとめ、本丸跡調査報告書刊行

■ 岩手県遺跡台帳登録

■ 岩手県史跡整備市町村協議会負担金

1-2 遺跡事前確認調査、個人住宅等記録保存調査 【国庫・県補助対象】

	事業費	財源内訳				
		国	県	地方債	その他	一般財源
H30	2,902	1,411	364			1,127
H29	2,586	1,256	291			1,039
増減	316	155	73			88

■ 開発範囲状況確認

■ 記録保存調査の実施

■ 工事立会等保護措置

- ・調査予定件数

	H30	H29	H28	H27	H26
確認調査（試掘調査）	18	21	17	27	27
記録保存調査（発掘調査）	3		4	2	1

1-3 遺跡内容等の確認調査

【国庫補助対象】

	事業費	財源内訳				
		国	県	地方債	その他	一般財源
H30	4,170	2,048				2,122
H29	4,322	1,967				2,355
増減	△ 152	81				△ 233

■ 市内遺跡の内容確認

- ・花巻城跡の保存活用に向けた内容確認調査の実施

H30調査 調査場所 花巻城本丸跡市有地
調査期間 平成30年9月18日～10月20日
調査面積 約200㎡

1-4 記録保存調査(受託事業)

	事業費	財源内訳				
		国	県	地方債	その他	一般財源
H30	2,177					2,177
H29	11,872				5,924	5,948
増減	△ 9,695				△ 5,924	△ 3,771

■ 開発対応（原因者負担による受託）

- ① 上ノ山遺跡発掘調査に係る室内整理及び報告書刊行（2,177千円）
事業内容 市道公園線・公園2号線（大迫地区）道路改良工事
事業主体 花巻市（建設部道路課）
調査期間 平成29年度～30年度（最終年度）

1-5 公有化遺跡の環境整備

	事業費	財源内訳				
		国	県	地方債	その他	一般財源
H30	636					636
H29	538					538
増減	98					98

■ 公有化遺跡の環境整備

- ・対象遺跡…久田野Ⅱ遺跡・花巻城跡(土塁)・毒沢城跡・新堀城址(遊歩道)・岳妙泉寺跡

平成 30 年度事業説明資料 【 事後評価 】

※色付きのセルのみ入力してください。また、行・列の挿入や削除は行わないでください。

会計	款	項	目	事業コード	事業名
一般	10	05	08	104570	埋蔵文化財保護活用事業

(単位：千円)

《事業手法の詳細》…概略図による事業手法の詳細と事業費の内訳を記載すること

【適宜、セルは結合して構わないが、結合した1つのセル内は1文章程度にとどめること。】

2 埋蔵文化財の活用 5,340 千円

2-1 史跡・埋蔵文化財の公開活用

	事業費	財源内訳				
		国	県	地方債	その他	一般財源
H30	584					584
H29	569					569
増減	15					15

- 遺跡標柱の計画的な設置
- 講座等の開催
 - ・ 市内遺跡標柱製作・設置…10か所/年
 - ・ 埋蔵文化財講演会の開催
 - ① 「稗貫、和賀の中世城館」
実施時期…平成30年9月 1日 講師 室野秀文氏（盛岡市教育委員会歴史文化課）
 - ② 「万丁目遺跡で発見した中世居館」
実施時期…平成31年1月19日 講師 山川純一氏（岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター）

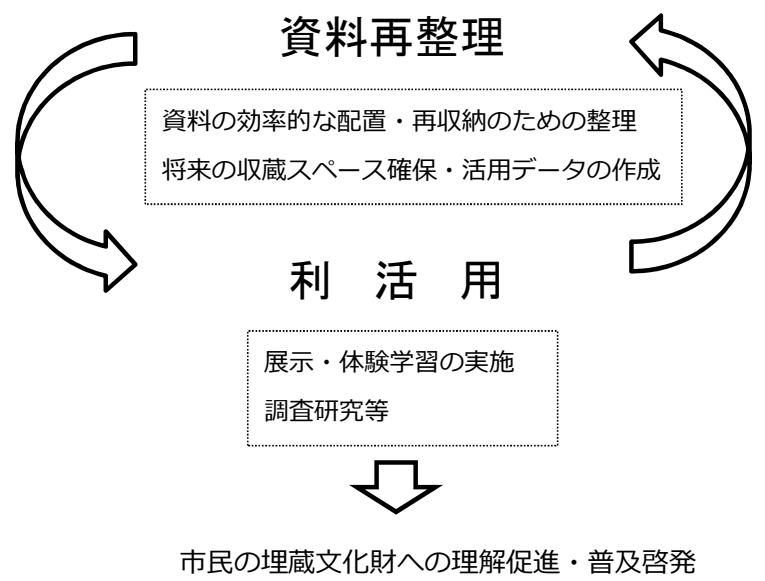
2-2 総合文化財センター展示公開・収蔵資料整理 【国庫・県補助対象】

	事業費	財源内訳				
		国	県	地方債	その他	一般財源
H30	4,756	2,212			11	2,533
H29	163				35	128
増減	4,593	2,212			△ 24	2,405

- 体験学習の実施
 - ・ 総合文化財センター体験学習
メニュー…勾玉づくり、火おこし体験、弓矢体験、館内クイズ 等
- 企画展等による収蔵資料の公開及び資料整理
 - ・ 総合文化財センター企画展の開催
 - ① 写真展「S L 銀河の四季」(2/23～5/6) 入館者数 273人(期間計578人)
 - ② 企画展「花巻の中世城館」(7/14～9/30) 入館者数 610人
 - ③ 共同展「あやつり人形亀花一座」(12/8～3/17) 入館者数 642人
 - ※共同企画展開催事業
- 資料再整理及び利活用
 - ・ 収蔵庫内資料の再整理
配置替え、効率的なコンテナ再収納、利活用に向けた収蔵データの作成等
再整理対象遺跡 ①不動Ⅰ遺跡 ②不動Ⅱ遺跡 ③久田野Ⅰ遺跡 ④久田野Ⅱ遺跡
⑤小瀬川遺跡
再整理コンテナ数 803箱

- ・ 企画展の実施
 - ① 収蔵資料展「遺跡のモノがたり～発掘資料から見える花巻① 不動Ⅰ・Ⅱ遺跡～」
(10/13～11/25) 入館者数 200人
- ・ 体験学習の実施
 - ①再整理資料を活用した拓本体験 「縄文をうつしとろう！」
開催回数 3回(7/28、12/22、1/9) 参加者合計 40名
 - ②バックヤード見学等 「発掘のお仕事体験&バックヤードツアー」
開催回数 2回(8/4、1/12) 参加者合計 39名

2-2 資料再整理及び利活用のイメージ



平成 30 年度 事務事業評価シート 【 事後評価 】

※色付きのセルのみ入力してください。また、行・列の挿入や削除は絶対に行わないでください。

会計	款	項	目	事業コード	事業名	
一般	10	05	09	104590	展示活動事業	
総合計画	分野	人づくり				
	政策	3-5 芸術文化の振興				
	施策	3 文化財の保護と活用				
目的	博物館事業の展示活動					
対象	市民					
意図	普段目にすることがない歴史的資料や美術作品を見ることにより、花巻の歴史や文化財への興味と関心が高まる。					
事業概要 …上記目的を実現するための事業手法を記載すること						
○資料収集活動事業 ○調査研究活動事業 ○教育普及活動事業 ○展示活動事業 ・特別展 昭和の子ども 7/7～8/26 ・テーマ展 花巻の遺跡 9/22～11/25 台焼 30/2/16～5/6 花巻人形 30/2/16～5/6 ・共同企画展 斎藤宗次郎 12/8～1/27						
市民参画の有無 【 対象外 】						
市民協働の形態		共催 後援・協賛	実行委員会・協議会 補助・助成	事業協力・協定 委託		
活動指標（上記「事業概要」に対応）		単位	区分	29年度(実績)	30年度(実績)	31年度(計画)
①	展覧会回数	回	計画	4	5	
			実績	4	5	
②			計画			
			実績			
③			計画			
			実績			
成果指標（上記「意図」に対応）		単位	区分	29年度(実績)	30年度(実績)	31年度(計画)
①	博物館入館者数	人	目標	20,000	20,000	
			実績	13,950	18,072	
②			目標			
			実績			
③			目標			
			実績			
成果指標の達成度		目標値より高い	○	概ね目標値どおり		目標値より低い

成果指標の達成度の要因分析 （新規事業及び成果指標を変更した場合は、その成果指標を設定した考え方、目標値の根拠を記載）		
前年度に引き続き、学芸員が花巻の歴史や文化について、豊富な知見を蓄えることを目的に、展示活動の基本となる調査研究に力点を置き事業を進めた。 改元前年に、歴代元号最長の昭和時代の子どもに焦点をあてた写真展を開催した。たくましく微笑ましい姿を見た人たちが、当時に想いをはせ語り合う場所となった。 また、花巻に関わる展示をしたこともあり、成果指標に掲げた来館者の目標数値に近づく要因となった。		
目的妥当性	公共関与の妥当性	花巻市の考古・歴史・美術工芸各分野の貴重な資料を収集及び保管すること、そして調査研究によって資料の歴史的な価値を明らかにし、公開等を行うことで、市民の教育、学術及び文化の振興に寄与することが博物館の役割である。
	○ 妥当である	
	見直し余地がある	
有効性	成果の向上余地	展覧会は、学芸員の調査研究活動が十分に反映されたものとし、市民の知的好奇心に訴える資料の選定を行い、開催趣旨に沿った内容の充実に努めている。
	○ 向上余地がある	
	向上余地がない	
効率性	事業費・人件費の削減余地	展覧会にかかる費用の積算にあたっては、展示資料の安全確保と魅力を最大限に伝えるディスプレイを行うため、コストバランスを充分に考慮し、事業費、人件費とも精査して経費の削減に努めている。
	事業費の削減余地がある	
	人件費の削減余地がある	
公平性	○ どちらも削減余地がない	
	受益と負担の適正化余地	来館者に対しては周辺他館との共通入館券や、団体料金他各種割引料金を設定するなど、来館者の観覧事情や目的に配慮した価格設定としている。
	受益機会の見直し余地がある	
	費用負担の見直し余地がある	
	○ 適正である	
総合評価 …上記評価結果の総括		
展覧会事業は、企画展示室で行う展示とその関連事業とで構成されているが、各展覧会の関連事業として行ったワークショップやミュージアムコンサート、専門研究者による講演は好評で、いづれも多く参加者があった。 また、歴史や文化が身近なものとして感じることができるよう、各事業で学芸員の創意工夫が見られた。		

平成 30 年度 事業説明資料 【 事後評価 】

※色付きのセルのみ入力してください。また、行・列の挿入や削除は絶対に行わないでください。

会計	款	項	目	事業コード	事業名
一般	10	05	09	104590	展示活動事業

単位：千円				
	29年度 決算額(A)	30年度 決算額(B)	31年度 現計予算額	決算額前年比 (B-A)
事業費	10,828	11,703	27,937	16,234
財 源 内 訳	国・県			
	地方債		4,800	
	その他	262	175	268 △ 87
	一般財源	10,566	11,528	22,869 16,321

※特定財源の内訳
・その他（雑入） 展覧会図録販売料198

事業期間	☐ 単年度繰返	期間限定	[平成 年度 ～ 平成 年度]
部重点施策における目標			
文化財の保護と活用			
事業開始の背景・経緯			
博物館は、市民が郷土の歴史や文化を学び、興味と関心の向上を図る機関として市民からの要望のもと建設された。展示内容をより理解しやすくするため、毎年展覧会や各種講座及び体験学習を開催している。			
○資料収集活動事業			
○調査研究活動事業			
○教育普及活動事業			
○展示活動事業			
・特別展	昭和のこども	7/7～8/26	
・テーマ展	花巻の遺跡	9/22～11/25	
	台焼	30/2/16～5/6	
	花巻人形	30/2/16～5/6	
・共同企画展	斎藤宗次郎	12/8～1/27	
意見・要望等の状況（市政懇談会や支所執務、議会答弁対応その他意見・提言等）			
花巻市内の遺跡を紹介や、斎藤宗次郎の資料活用した取組みを望む声がある。多田等観がチベットから請来した資料や花巻との交流の継続的な調査を望まれている。			

担当部署 部名 教育部 課名 博物館 担当係長 小原伸博 内線 32-1030

(単位：千円)

《事業手法の詳細》…概略図による事業手法の詳細と事業費の内訳を記載すること。
【適宜、セルは結合して構わないが、結合した1つのセル内は1文章程度にとどめること。】

花巻市博物館が行う4つの活動

①資料の収集及び整理保管	表装・刀研磨 383 消耗品費 318 寄贈授受旅費 100 計 801 千円
②資料の展示公開	

展覧会名	会期	内 訳	
		直接経費	共通経費
特別展 写真家が捉えた 昭和のこども	7/7～8/26	開催業務費	2,858
		造作製作費	98
		印刷費	418
		発送費	53
		広告費	108
		看板製作費	29
		人件費	349
		計	3,913 千円
テーマ展 花巻の遺跡	9/22～11/25	印刷費	130
		展示費	163
		看板製作費	29
		発送費	9
		計	331 千円
テーマ展 台焼 花巻人形	2/16～5/6	展示費	163
		看板製作費	29
		発送費	9
		計	201 千円
		計	5,169 千円

③調査研究及び情報の提供	古文書調査 200 花巻人形分析調査 226 仏画撮影調査 2,306 調査旅費 211 撮影機材購入 651 図書購入 57 計 3,651 千円
④教育普及	

⑤その他(施設改修・有害虫等駆除)	博物館収蔵庫ガス燻蒸 2,638千円
-------------------	--------------------



市民文化の向上発展 ふるさとの特色ある伝統文化を継承しながら、親しみ理解する生涯学習活動に貢献する。

平成 30 年度 事務事業評価シート 【 事後評価 】

※色付きのセルのみ入力してください。また、行・列の挿入や削除は絶対に行わないでください。

会計		款	項	目	事業コード	事業名		
一般		10	05	09	104600	教育普及活動事業		
総合計画	分野	人づくり						
	政策	3-5	芸術文化の振興					
	施策	3	文化財の保護と活用					
目的		博物館事業の教育普及活動						
対象		市民、児童・生徒、教師						
意図		ふるさとの歴史や文化への興味と関心が深まり郷土を愛する心が養われる。						
事業概要 …上記目的を実現するための事業手法を記載すること								
○資料収集活動事業 ○調査研究活動事業 ○展示活動事業 ○教育普及活動事業 博物館と学校教育の連携による調査・研究 体験学習・各種講座の開催								
市民参画の有無 [対象外]								
市民協働の形態		共催		実行委員会・協議会		事業協力・協定		
		後援・協賛		補助・助成		委託		
活動指標（上記「事業概要」に対応）		単位		区分	29年度(実績)	30年度(実績)	31年度(計画)	
① 講座回数	回	計画	15	12				
		実績	46	57				
② 体験学習開催回数	回	計画	11	9				
		実績	18	19				
③		計画						
		実績						
成果指標（上記「意図」に対応）		単位		区分	29年度(実績)	30年度(実績)	31年度(計画)	
① 講座受講者数	人	目標	300	240				
		実績	1,944	1,977				
② 体験学習受講者数	人	目標	210	180				
		実績	474	421				
③		目標						
		実績						
成果指標の達成度	○	目標値より高い		概ね目標値どおり		目標値より低い		

成果指標の達成度の要因分析 (新規事業及び成果指標を変更した場合は、その成果指標を設定した考え方、目標値の根拠を記載)		
年度当初に計画した館主催の講座に加え、市内各小学校への出前授業、地域コミュニティの集まりなどの出前講座の要望が多数あった。市民の花巻の歴史や文化に対する学習意欲の向上が感じられた。		
目的妥当性	公共関与の妥当性	博物館と小・中学校とが連携することで、郷土の歴史や文化に対する興味関心を高め、深い理解へと導くことで、地域を大切にすることを育む。
	☐ 妥当である	
	見直し余地がある 妥当でない	
有効性	成果の向上余地	博物館所蔵資料を念頭に、各種講座や体験学習において、受講者のニーズや時代に即応した内容を考えることで充実を図っている。
	☐ 向上余地がある	
	向上余地がない	
効率性	事業費・人件費の削減余地	講座・体験学習とも地域の文化に即した内容であり、専門的な知識や技術を有した人材が必要である。
	事業費の削減余地がある	
	人件費の削減余地がある ☐ どちらも削減余地がない	
公平性	受益と負担の適正化余地	講座・体験学習とも基本的に受講や参加に制限はなく、費用についても実費となる材料費のみの負担である。
	受益機会の見直し余地がある	
	費用負担の見直し余地がある ☐ 適正である	
総合評価 …上記評価結果の総括		
従前の講座に加え、先人顕彰のメニューの充実を図り、先人が関わった地域から、積極的にご活用いただいた。 博物館と小中学校との連携については、年を追うごとに事業の成果があらわれてきている。博物館でのワークシートを活用した見学や、実際に各校におもむき出前授業を行うことで、親しみもてる歴史や文化の学習をすることができた。 学習メニューの作成は、各校の担当教諭と密に連携を図りながら、各校共通で学べるものに加え、それぞれの地域特性をもりこんだ内容とすることで興味や関心を高めるように工夫した。		

平成 30 年度 事業説明資料 【 事後評価 】

※色付きのセルのみ入力してください。また、行・列の挿入や削除は絶対に行わないでください。

会計	款	項	目	事業J-ド	事業名
一般	10	05	09	104600	教育普及活動事業

単位：千円

		29年度 決算額(A)	30年度 決算額(B)	31年度 現計予算額	決算額前年比 (B-A)
事業費		2,168	2,004	2,233	△ 164
財 源 内 訳	国・県				
	地方債				
	その他	46	34	167	△ 12
	一般財源	2,122	1,970	2,066	△ 152

※特定財源の内訳

その他：雑入（材料代）34千円

事業期間	○	単年度繰返	期間限定	〔平成 年度 ～ 平成 年度〕
部重点施策における目標				
文化財の保護と活用				
事業開始の背景・経緯				
博物館は、市民が郷土の歴史や文化を学び、興味と関心の向上を図る機関として市民からの要望のもと建設された。展示内容をより理解しやすくするため、毎年展覧会や各種講座及び体験学習を開催している。				
○資料収集活動事業 ○調査研究活動事業 ○展示活動事業 ○教育普及活動事業 博物館と学校教育の連携による調査・研究 体験学習・各種講座の開催				
意見・要望等の状況（市政懇談会や支所執務、議会答弁対応その他意見・提言等）				
主に小学校における社会科の総合学習を検討するうえで、博物館との連携によって子供たちにより深い考察力が生まれ、地域の歴史や文化を理解する窓口となっているとの意見が寄せられてい				

担当部署 部名 教育部 課名 博物館 担当係長 小原伸博 内編 32-1030

（単位：千円）

《事業手法の詳細》…概略図による事業手法の詳細と事業費の内訳を記載すること。
【適宜、セルは結合して構わないが、結合した1つのセル内は1文章程度にとどめること。】

花巻市博物館が行う4つの活動

①資料の収集及び整理保管

②資料の展示公開

③調査研究及び情報の提供

④教育普及

項目		回数	内訳（直接経費）	内訳（共通経費）
体 験 学 習	花巻人形絵付け	2回	講師謝礼 32千円	社会教育指導員報酬 報酬 1,446千円 保険料 219千円 消耗品 200千円
	遊び道具づくり	1回	講師謝礼 8千円	
	台焼づくり	1回	講師謝礼 16千円	
	勾玉づくり	2回	学芸員対応	
	琥珀玉づくり	2回	学芸員対応	
	縄文弓矢・火起こし	1回	学芸員対応	
講 座			56千円	
	館長講座	3回	館長対応	
	博物館講座（外部講師）	3回	講師謝礼95千円 旅費151千円	
	博物館講座（学芸員）	随時	学芸員対応	
博 学 連 携	古文書講座（学芸員）	6回	学芸員対応	
			246千円	
	学校見学	随時	学芸員対応	
	学校出前講座	随時	学芸員対応	
	博学連携研修会	2回	博学連携委員謝礼13千円	
			13千円	1,865千円

計 2,180千円



市民文化の向上発展

ふるさとの特色ある伝統文化を継承しながら、親しみ理解する生涯学習活動に貢献する。